

2018 年度

日本フランス語フランス文学会
中部支部大会

12月8日（土）

開催校：名古屋大学

〒464-8601 名古屋市千種区不老町（東山キャンパス）
Tel: 052-789-5111（代表）

日本フランス語フランス文学会 中部支部大会のご案内

2018年度中部支部大会を下記の通り開催いたします。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

1) 研究発表会 2) 総会 3) 懇親会、以上 3 点の出欠について、11月19日(月)までに以下の方法で事務局までお知らせ下さい。

出欠連絡先:

- メールにて sjllf.chubu01@gmail.com
- メールをご使用にならない場合は、
Tel: 0561-75-2646 Fax: 0561-75-2690(事務局)

なお、懇親会出席申込み後の変更につきましても、必ず上記連絡先までご連絡をお願い致します。

2018年11月1日
支部長 大岩 昌子

記

- ♣ 日時 2018年12月8日(土) 12時50分 開会
- ♣ 発表会場 名古屋大学東山キャンパス 文学部 第127講義室
- ♣ 控室・賛助会員ブース 第130会議室

- ♣ 懇親会会場 レストラン シェ ジロー
〒464-8603 名古屋市千種区不老町 名古屋大学内 ES 総合館 1F
文学部棟より徒歩約10分 Tel: 052-781-2115

- ♣ 会費

大会費	会員	1,000 円
	一般	500 円
懇親会費	正会員 A	5,000 円
	正会員 B	} 3,000 円
	学生会員	
	発表者	
- ※会費は当日受付でご納入ください。

- ♣ お問い合わせ 〒470-0197 愛知県日進市岩崎町竹ノ山 57
名古屋外国語大学 外国語学部 フランス語学科 大岩研究室内
日本フランス語フランス文学会中部支部事務局
Tel: 0561-74-1111(代表) E-mail: sjllf.chubu01@gmail.com

プログラム

*受付開始 (12:20)

総合司会 名古屋大学 重見 晋也

*開会の辞 (12:50)

中部支部長 大岩 昌子

*主催校挨拶

名古屋大学人文学研究科長 佐久間 淳一

*研究発表 (13:00~14:30)

1

司会 南山大学 茂木 良治

日本語母語話者における pendant を用いた過去時制の使用について

名古屋大学大学院 デュベール ダヴィ

2

司会 岐阜大学 矢橋 透

ラ・フォンテーヌ『寓話』第一集における « messer » の使用について

名古屋大学大学院 伊奈 友梨子

3

司会 富山大学 梅澤 礼

1867年版『パリガイド』と遠近法—幾何学的空間の等質性—

金城学院大学 下村 武

*休憩(14:30~14:45)

*研究報告 (14:45~15:15)

司会 名古屋大学 重見 晋也

中世フランス文献学の仕事

名古屋大学 小栗栖 等

*休憩(15:15~15:30)

*シンポジウム「ルネ・ジラルの拓いた思想的・文学的地平」(15:30~16:50)

司会 名古屋大学 松澤 和宏

講演「ルネ・ジラルと私」

東京外国語大学名誉教授 西永 良成

「ルネ・ジラル・フローベール・19世紀」

パネリスト 名古屋大学 松澤 和宏

全体討論

(後援:日本フランス語フランス文学会、名古屋大学フランス語フランス文学研究室)

*総会(17:00~18:00)

議長 信州大学 鎌田 隆行

*閉会の辞(18:00~18:10)

名古屋大学 松澤 和宏

*懇親会(18:15~20:30)

会場 レストラン シェ ジロー



☆ 支部会会場は地下鉄①番出口を出て右折し、5分ほどで文学部棟の前に到着します。

☆ 懇親会会場は、支部会会場か地下鉄③番出口から道の反対側にある郵便局を目指して進んでください。郵便局を越えて本山方面（地図の上側）に向かって右手にあります。10分程度で到着します。

西永良成

1944年生まれ。東京外国語大学名誉教授。東京大学文学部フランス文学科卒業。ソルボンヌ大学に留学。パリの日本館館長等を歴任。フランス教育功労章（パルム・アカデミック、1996年）受章、日仏翻訳文学賞（小西財団、2001年）受賞

著書：『＜個人＞の行方ルネ・ジラールと現代社会』（大修館）、『激情と神秘ルネ・シャールの詩と思想』（岩波書店）、『小説の思考クンデラの賭』（平凡社）、『カミュの言葉 光と愛と反抗と』（ぶねうま舎）等、またユゴー『レ・ミゼラブル』（ちくま文庫）やクンデラ作品の翻訳多数。

講演要旨

演題：ルネ・ジラールと私

私が一九七〇年代末に出会ったルネ・ジラールの学際的な仕事をどのように文学研究の役にたててきたか、懐古的に語ってみたい。具体的にはカミュ、クンデラの作品解釈の骨子を述べる。それとともに、すでにジラール理論を経済学に応用したジャン＝ピエール・デュピュイの事例があるが、他の分野でもジラール理論の効果的な応用がありうるのではないかとともに考えてみたい。

